令和8年度

試験名：編入学試験小論文【社会学】　【社会・国際学群　社会学類】

区　　分	標準的な解答例又は出題意図
専門科目	問1：傍線部について、本文の内容を踏まえ、その特徴がいかなるものであるのかを説明しなさい。そのうえで社会学的な方法論にとって「言説」概念がどのような意義と限界を持っているのかを説明しなさい。 【出題意図】 ・オリエンタリズムそのものの説明ではなく、言説としてのオリエンタリズムという設定を本文に即して理解しているかどうかを問う問題。以下の①と②について関連する解答ができているかどうかが評価のポイント。 ①「想像」以上に「実体的」であるオリエントに注目するため、ここでは「言説」概念が導入されている。本文では実例として「学問」が挙げられ、それが「存在論的・認識論的区別にもとづく思考様式」になっていることが指摘されている。さらにこうした言説としてオリエンタリズムは「オリエントを支配し再構成し威圧するための西洋の様式」であり、その「本質を見極める」ために、フーコーの「言説概念」に言及されている。フーコーの言説概念を参照することで、本文は「誰でも、オリエントについてものを書いたり考えたり行動したりするさい」に「思考と行動」が「自由」とは言い切れない状態になってしまうこと、すなわち私たちがすでに「関心の網の目の総体」のなかに組み込まれていることが明らかにしようとしている。 ②社会学的な方法論で言えば、「言説」概念は質的研究に近い。質的研究において言説は、小説や専門書、新聞記事や雑誌記事、視覚的な資料や映像資料などから収集される。この方法論では適切な読解や解釈を必要とするテクストデータが分析対象であり、分析の方向性も複数ある（イデオロギー批判を目的とした言説分析からエピステーメーに注目する言説分析まで）。言説に注目した社会学では、分析の客観性が問題になることもある。そこで分析の客観性をある程度保証するため、近年では言説の量的研究も盛んである（ネット言説を分析する計算社会科学など）。 問2：具体的な経験的対象を自由に選んだうえで、本文で紹介された「オリエンタリズム」という考え方を参照しながら、その対象について社会学的な考察を論理的に展開しなさい。 【出題意図】 ・①本文を踏まえて問題意識を展開し、②対象を明確にしたうえで、③何かしらの見解を論理的に導き、⑤さらに社会学的な意義を説明できているのかどうかが評価のポイント。 ・たとえば、オリエンタリズムを他者表象の問題と捉え、都市と地方といった地域をめぐる差異に注目した議論を展開すること、ジェンダーアイデンティティの差異に注目した議論を展開すること、社会におけるマジョリティとマイノリティの関係に注目した議論を展開することなどが考えられる。